

開催報告

第 57 回地盤工学研究発表会の参加報告

前田工織株式会社 辻 慎一郎

2022 年 7 月 20 日から 23 日にかけて、第 57 回地盤工学研究発表会が新潟市の朱鷺メッセで開催された。新潟市での開催は 2004 年の第 39 回地盤工学研究発表会以来であり、今年是对面とオンラインを併用したハイブリッド形式による開催となった。新型コロナウイルスの派生型であるオミクロン株 (BA.5) の流行による感染が第 7 波に入り始めた時期であったが、各セッションの会場は座席に余裕をもたせてあり、消毒用アルコールを設置するなどの感染対策がとられていた。開会セレモニーでの大塚悟先生 (実行委員長) の発表によると、研究発表会の申込みは 1603 名あり、そのうち現地参加は 1083 名、オンライン参加は 580 名、技術展示は 60 社となり、盛況な研究発表会になった。

研究発表会では 830 件の研究発表、9 テーマのディスカッションセッション、3 テーマの特別セッションが行われた。特別セッションの令和 3 年度地盤工学会賞受賞者講演では、技術業績賞 3 編、技術開発賞 3 編、論文賞 (和文) 2 編、論文賞 (英文) 2 編、研究奨励賞 3 編の受賞者講演があった。ジオシンセティックスに関連する技術として、「九州新幹線 (武雄温泉・長崎間) における GRS 構造物の標準化に向けた取り組み」と「文化財的価値と地震時安全性を両立した熊本城天守閣石垣復旧工事」が技術業績賞を受賞した。

ジオシンセティックスに関する研究発表は、補強土①、補強土②、地震時斜面・盛土防災②、空洞・陥没のセッションで、多岐にわたる研究発表があった。「補強土①」ではジオテキスタイル両面補強土壁の地震時挙動に関する振動台模型実験、ジオテキスタイルにより補強された高盛土の築堤時変形挙動、ジオグリッド補強土における盛土材選択と締固め条件に関する考察、鉛直載荷によるジオテキスタイル補強土壁の内部ひずみと外部変形の分析、ジオシンセティックス補強土擁壁の鉛直繰り返し載荷に対する変形特性に関する研究、統計的手法を用いた不均一性を有する不織布の圧縮特性の評価について 6 編の発表が行われた。「補強土②」ではクリンカアッシュに対するジオグリッド補強材の引抜き特性と引抜き後の粒度分布、路面下空洞がある舗装路盤の安定性に及ぼす補強材特性の影響、路面下空洞がある舗装路盤の安定性に及ぼす補強材特性の影響、巻き込みジオグリッド補強地盤の支持力特性に及ぼす補強体幅・厚さ及び相対密度の影響、荷重分散とジオテキスタイルの引き上げ効果に着目したマットレス補強地盤の支持力発現メカニズムに関する研究について 5 編の発表が行われた。「地震時斜面・盛土防災②」では、損傷した補強土壁の補修における ソイルネイルの有効性について、「空洞・陥没」では、地盤内空洞の発達抑制と耐震性向上における ジオシンセティックスの効果について発表が行われ、それぞれのセッションで活発な討議がされた。